

1. 科目名 (単位数)	人権教育 (2 単位)	3. 科目番号	GELA1305 GEBS1105
2. 授業担当教員	曾根原 和明		
4. 授業形態	講義、グループ学習、討議、発表等	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	本科目は総合教育科目に位置づけられ、法学、福祉、文章表現、情報処理等の学びと横断的に関連する。とりわけ「法学 (憲法) 」における基本的人権の理解、「福祉と教育」における社会的包摂の視点、「文章表現」における論理的思考力、「情報処理演習」における情報活用能力は、本科目の学修を支える基盤となる。		
7. 講義概要	<p>○人権教育とは「人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動」(「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律第2条」)であり、国民は「人権尊重の精神の涵養に努めるとともに、人権が尊重される社会の実現に寄与するよう努めなければならない。」(同法律第6条「国民の責務」)とされている。</p> <p>○上記の趣旨を受けて、本科目においては、日本及び海外の人権課題(問題)の現状や解決・改善の取り組みについて理解を深める学習を行う。</p> <p>○学校や社会における継続した人権教育(いじめ、虐待、女性・外国人の人権等具体的な人権課題)の必要性やその在り方を実践的に学習し、人権感覚を磨き、身に付けられるようにする。</p> <p>○人権教育に関わる基本的な法例等についても学習する。</p>		
8. 学習目標	<p>○人権の歴史や日本国憲法における国民の権利について再確認し、重要点についての理解を深めることができる。</p> <p>○人権教育の根拠法である「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」や「人権教育・啓発に関する基本計画」について、目的、基本理念、内容について理解を深めることができる。</p> <p>○『人権教育・啓発白書』に示されている我が国の人権課題を把握し、人権尊重に関する現状と諸課題についての理解を深め、人権課題の解決に努めていこうとする姿勢を身に付ける</p> <p>○学校や社会において、人権感覚を磨き身に付ける継続した取り組みの必要性について、積極的に授業に参加し、理解を深めることができる。</p> <p>○人権擁護を目的とする種々の国際法(条約)や国内法の概要を理解できる。</p>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>事前学習ではテーマに関する自分の考えや体験を整理し、事後学習では授業内容を踏まえた理解の深化や考えの変容を言語化する。これらの課題は学習の積み重ねとして評価の対象とする。</p> <p>学期末には、本科目全体を総括するレポート(1500字以内)を課す。授業で扱った人権の基本概念や現代社会の人権課題を踏まえ、自らの認識の変化や今後の行動への展望を関連づけて論述することを求める。評価にあたっては、授業内容を根拠として自らの考えを論理的に構成できているかを重視する。</p> <p>事前学習および事後課題の提出は、いずれも次回授業日の前々日までとする。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 栗本敦子・伏見裕子『これからの社会を生きていくための人権リテラシー(第2版)』北樹出版、2024。</p> <p>【参考書】 古橋エツ子 監修・和田幸司編著『人権論の教科書』ミネルヴァ書房、2021。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>1. 人権教育の意義及び基礎を理解しているか。</p> <p>2. 人権問題の現状や解決・改善の取り組みについて自らの問題として理解を深めているか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>グループでの活動、授業への積極的参加度、レポート等を総合して評価する。</p> <p>1 グループでの活動 総合点の30%</p> <p>2 積極的態度(発言、討議、取り組み等) 総合点の20%</p> <p>3 レポート等(小課題、試験を含む) 総合点の50%</p> <p>上記の他に、本学の規定に定められている3/4以上の出席が単位の取得条件であることも配慮する。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、人権に関する知識を身につけることにとどまらず、自分自身や他者、社会の在り方を問い直しながら、人権を日常の行動や判断に結び付けて考える力を育むことを重視します。人権教育は、特定の価値を受け取る学びではなく、対話と省察を通して、自ら意味づけ、判断し、行動につなげていく学びです。</p> <p>第一に、対話的・参加的な学習への積極的な参加を大切にしてください。本科目では、アクティビティやグループワークを通して、受講生同士が考えを共有し、多様な感じ方や視点に触れる機会を多く設けます。こうした対話の過程そのものが、人権を尊重する態度や関係性を学ぶ重要な学習となります。</p> <p>第二に、自分自身の体験や価値観を振り返り、問い続ける姿勢を大切にしてください。人権に関する問題には、単純な正解はありません。授業内での活動や振り返りを通して、「なぜそう感じたのか」「別の立場から見るとどうか」といった問いを重ねながら、自分なりの考えを深めていくことが求められます。</p> <p>第三に、他者の考えや感じ方を尊重し、安心して意見を交わせる学びの場をともにつくる態度を大切にしてください。人権教育の学びは、多様な背景や立場をもつ人々と共に生きる社会を考えることにつながります。互いの違いを否定せず、誠実に向き合いながら学び合う姿勢を大切にしてほしいと思います。</p> <p>本科目での学びが、人権を「知っていること」から「生かすこと」へとつながる一歩となることを期待しています。</p>		
13. オフィスアワー	授業内(初回授業)で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	テキスト「第1回 ガイダンス」	事前学習	「人権」という言葉から連想することをまとめてください。
	人権リテラシーの意味を確認し、人権と多様性の基本	事後学習	● 学習目標に照らした自己評価

	概念を体験的に理解する。		<ul style="list-style-type: none"> 人権リテラシーとは何かを、自分の言葉で説明してください。
第2回	テキスト「第2回 そもそも人権とは？」	事前学習	「権利」とは何かを自分なりに説明してください。
	人間の尊厳を基盤とする人権概念の成立と、権利・義務の関係を整理する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 人間の尊厳と権利・義務の関係を整理してください。
第3回	テキスト「第3回 人権は進化/深化する」	事前学習	現代社会で重要だと思う人権課題を1つ挙げ、理由を書いてください。
	人権の歴史的発展と国際的広がりを理解し、人権が動的概念であることを確認する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 人権が動的概念であるとはどういうことを説明してください。
第4回	テキスト「第4回 『わたし』と人権」	事前学習	自分の強みや大切にしている価値を書いてください。
	自己理解と自己肯定を通して、人権感覚の基盤を形成する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 自己理解が人権感覚の基盤になる理由をまとめてください。
第5回	テキスト「第5回 すべての人が尊重されるってどういうこと？」	事前学習	「尊重する」とはどういう行為か、自分の考えを書いてください。
	他者理解と共感の視点を身につけ、尊重の意味を考察する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 他者理解と共感の違いを踏まえ、尊重の意味を整理してください。
第6回	テキスト「第6回 差別は『する』？『ある』？」	事前学習	「ふつう」という言葉を使う場面を1つ挙げ、その意味を書いてください。
	差別を個人行為と社会構造の両面から捉える視点を獲得する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 差別を個人の問題と社会構造の問題に分けて説明してください。
第7回	テキスト「第7回 マジョリティ・マイノリティ」	事前学習	自分が多数派または少数派と感じた体験を書いてください。
	多数派性と少数派性の関係構造を理解する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 多数派性が社会に与える影響を整理してください。
第8回	テキスト「第8回 特権とは」	事前学習	自分が当然だと思っていることを1つ挙げてください。
	見えにくい優位性としての特権を理解し、自己の立場性を自覚する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 特権とは何かを説明し、自分の立場性について触れてください。
第9回	テキスト「第9回 みんな同じ=平等？」	事前学習	「平等」という言葉のイメージをまとめてください。
	形式的平等と実質的平等の違いを理解する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 形式的平等と実質的平等の違いを整理してください。
第10回	テキスト「第10回 対立は悪くない」	事前学習	最近体験した対立場面を簡潔に書いてください。
	対立を民主的社會における学習資源として捉える。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 対立を建設的に活用するために必要な視点をまとめてください。
第11回	テキスト「第11回 『わたし』と『あなた』を尊重する」	事前学習	言いたいことを我慢した体験を書いてください。
	アサーティブな自己表現と相互尊重の方法を学ぶ。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 アサーティブな自己表現の特徴を説明してください。
第12回	テキスト「第12回 情報の取り扱い」	事前学習	SNS利用で気をつけていることを書いてください。
	情報社会における人権課題を整理する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 情報社会における人権課題を整理してください。
第13回	テキスト「第13回 よりよい社会をめざして」	事前学習	身近な社会課題を挙げてください。
	人権を日常の行動原理として位置づけ、社会的責任を自覚する。	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標に照らした自己評価 人権を日常行動にどのように生かすか、具体的に述べてください。
第14回	人権教育の授業構成を考える① 人権教育の授業を構想する際、価値の注入に陥らず、学習者が自ら解釈、判断できる学習課題を設定するた	事前学習	これまでの授業(第1~13回)の中で、特に印象に残っている活動を1つ挙げ、「なぜそれが印象に残ったのか」を150~200字で述べてください。

	<p>めの設計原理を学ぶ。育てたい資質・能力の三つの柱を軸に、目標設定を具体化し、扱う素材を教材として成立させるための教材研究の観点を獲得する。</p>	<p>事後学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習目標に照らした自己評価 • 人権教育が「価値の押しつけ」にならないために必要な条件を、本文で扱った観点（目標設定、教材化、資質・能力の三つの柱など）を踏まえてまとめてください。
<p>第15回</p>	<p>人権教育の授業構成を考える②</p> <p>授業の学習形態と具体的活動を、目標と整合させて設計する視点を学ぶ。さらに、評価は学習者のランク付けではなく学びの可視化と授業改善に資するものだという考え方を理解し、ポートフォリオ評価やパフォーマンス評価の考えを、授業の小さな単位に適用する方法を身につける。</p>	<p>事前学習</p>	<p>第14回で整理した「価値注入にならない条件」を読み直し、それを実現するために必要な学習形態（協力的・参加的・体験的）のうち、最も重要だと思うものを1つ選び、その理由を述べてください。</p>
		<p>事後学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学習目標に照らした自己評価 • レポート課題 本科目で学んだ内容を踏まえ、 ①人権の基本的理解 ②現代社会における具体的な人権課題 ③自分の人権観や他者との向き合い方の変化 ④今後どのように行動していくかを関連づけて1500字以内で論じなさい。
<p>期末試験</p>			